

エッセイ Essay



私・豊・橋

主婦

ユリア・ソトニコワ

ユリア・ソトニコワと申します。ソトニコワという姓はロシア系ですが、私はウクライナ人ドネツク出身です。父方の曾祖父はポーランド人、母方の曾祖母はベラルーシ人です。私の中にはウクライナ、ロシア、ポーランド、ベラルーシの血が流れています。

ドネツクはウクライナ東部の都市ですが、石炭資源が豊富な地帯でウクライナの産業を支えています。ソビエト連邦の時代からロシアや近隣国カザフスタン、キルギスタン、アゼルバイジャン、モンゴル等の外国人労働者が多く住み、子供の頃は外国人労働者の子供たちとも仲良く遊びました。

ソビエト連邦の時代、ウクライナは西部を除きロシア語が共通語として広く普及しました。独立後はウクライナ語が公用語となり、徐々に普及しています。私は普段ロシア語を話します。

ソビエト連邦が崩壊した日、私はとても大きな不安に襲われました。大国ソ連が崩壊し、この先一体どうなるのだろうか。「自由」と言っても何が自由なのか。それまで国内は自由に旅行できましたが、外国旅行は夢の夢でした。学校では英語やフランス語を学びましたが、実践する機会はないだろうと思っていました。しかし、自由に外国へ行くことができることが分かり、未来が灯されたのです。旅行好きの私にとってこれは大きなチャンスと胸が高鳴りました。そして、父方の祖国ポーランドへ旅行しましたが、初めて見る外国の景色は今でも色鮮やかに私の脳裏に残っています。

さて、私が来日したのは16年前です。友人が日本の男性と結婚したのを機に私も日本へ行ってみようと思うようになりました。異文化への憧れがありました。最初は旅行のつもりでしたが、友人が住む岐阜市に私も住むことになりました。治安の良さ、おいしい食事、人々の優しさ、この三つがある日本が好きになりました。問題は日本語です。ヨーロッパの言語と全く違う日本語の習得は苦しかったです。「どうしてもできない!」と自信が持てず、私はウクライナへ帰国してしまったのです。

帰国後、友人とキエフを訪れた際にすれ違った旅行者が日本語を話していることが分かりました。その旅行者に「写真を撮ってくれますか?」と英語で

お願いされましたが、なぜか自然に「いいですよ。撮りましょう!」と日本語が出てきたのです。その後その旅行者としばらく日本語で話しをしました。今まで学習した文法の知識が、話す日本語にリンクしたのです。これまで文法は理解しても、話すことが苦手でした。これだったらもう一度日本で暮らせる、暮らしてみたいと思いました。こうして私は再び来日し、昼間は岐阜の貿易会社で通訳として勤務し、夜間はロシア語の講師として勤務する忙しい日々を送っていました。友人もでき、結婚し、充実した日々を送っていました。

そんな矢先、夫が豊橋へ転勤することになりました。夫は私を気遣い岐阜から豊橋へ2時間かけて通勤してくれましたが、それは無理なことだと分かり、豊橋へ引越すことを決めました。慣れ親しんだ岐阜を離れることは悲しかったです。そんなある時、あることに気がつきました。豊橋の「豊」という漢字は「豊か」、「橋」はブリッジ。漢字の意味が分かった時、「ここに住めば何かいいことが起こる。」と。そんな予感と希望を胸に私たちは豊橋へ引越してきました。

こうして私たちの豊橋での生活が始まり、まもなくして待望の赤ちゃんが授かりました。息子は今年5歳になりました。縁があって豊橋に来ましたが、新しい出会いやつなかりに感謝し、私も豊橋に根を張っているところです。豊橋はその漢字が意味する通り、「豊かさ」を「橋」のようにつないでくれる所だと私は思っています。(実際に)橋がたくさん(豊かに)ある所ではありませんね(笑)。そして今、私は新たな目標、子供の英会話講師になるべく準備を始めています。ロシア語も教えたいと思っています。人と人、心と心をつなぐ橋、どんな新しい「橋」が私に架けられるかわくわくしています。

*ユリアさんはFMとよはし「とよはしザ・ワールド」10月放送に出演します。

